

第2次斜里町観光振興計画（案）の概要

1 計画の策定方法

- ①第1次斜里町観光振興計画の実施状況及び課題を踏まえて、中長期的な視点での観光振興施策等をまとめている。
- ②斜里町観光振興戦略会議委員（16名）との協議を踏まえて意見反映、項目整理を実施した。
- ③斜里町自治基本条例の趣旨の下で、意見公募手続（パブリックコメント）を行う予定。

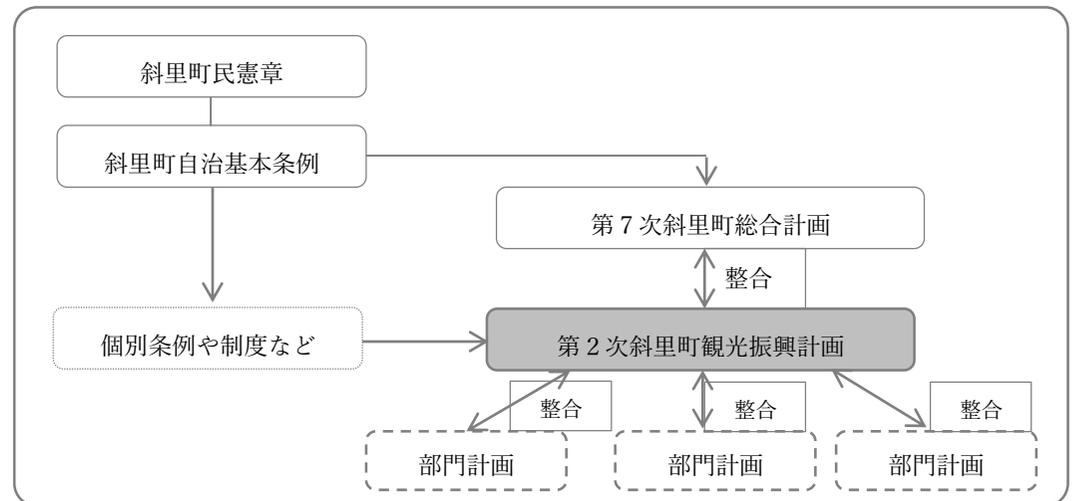
2 計画の基本的事項

1) 計画策定の趣旨と目的（P2）

- ①観光を取り巻く状況は大きく変化し、新型コロナウイルスの世界的な流行、海難事故に伴う影響は地域経済に深刻なダメージを与え、特に観光産業への影響は大きく観光の在り方そのものが大きな転換期を迎えている。
- ②地域の魅力である豊かな自然とのバランスを図り、町民や観光関係者が共有の認識をもち協働していくことが大切であり、国内外から選ばれる観光地として持続可能な観光を推進し、中長期的な視点での着実な観光振興をめざす。
- ③次の4点を目的として策定する。
 - I 目指すべき方向性や目標、実施すべき事項の明確化
 - II その方向性や目標、実施事項を、行政・観光団体・関係者等で広く共有
 - III 効果的で効率的な投資を進める
 - IV 着実な観光振興を図り、地域活性に資する

2) 計画の位置づけ（P3）

- ①第7次斜里町総合計画に基づく個別計画として策定する行政計画
- ②総合計画の次層に位置する
- ③観光行政の基本計画かつ実施計画の性格を併せもつ計画



3) 計画の期間 (P3)

- ①令和6年度～令和15年度までの10ヵ年とする。
- ②令和9年度/令和12年度に中間点検作業を行い、必要に応じて見直しを行う予定。

区分	令和年度 (西暦年度)									
	6 (2024)	7 (2025)	8 (2026)	9 (2027)	10 (2028)	11 (2029)	12 (2030)	13 (2031)	14 (2032)	15 (2033)
第7次 総合計画 R6-15	→									
				中間 点検					第8次計画策定	
第2次観光 振興計画 R6-15	←									
			中間 点検			中間 点検			第3次計画策定	

4) 計画の構成 (P4)

第1章 計画の基本的事項

計画の目的や位置づけ、期間、策定方法、推進方法などの基本的事項を掲載

第2章 観光の位置づけと現状及び課題

観光の動向や位置づけ、現状及び課題の認識などを掲載

第3章 観光振興の目標と方向性

観光振興の目標やめざすべき観光地イメージ、視点、目標項目・数値などを掲載

第4章 計画推進イメージと施策の具体的な内容等

背景・ニーズを踏まえた今後実施していくべき施策、計画推進イメージなどを掲載

第5章 参考資料

第2次斜里町観光振興計画の空間イメージ図、用語集、第2次斜里町観光振興計画策定の経過を掲載

5) 計画の推進方法 (P5)

- ①斜里町観光振興戦略会議にて行う。
- ②進行管理は、少なくとも年2回(5月と11月)戦略会議を開催する。
 - ・5月は前年度実施事業と当該年度実施予定事業の協議
 - ・11月は当該年度の事業の進捗確認と次年度予定事業の協議
- ③財源は、行政による事業は国・道の補助金・交付金を活用しつつ、計画的な実行に努め、観光協会等による事業は自ら実施するほか、必要に応じて各種助成制度を活用する。また、新たな観光振興財源の導入を検討のうえ、計画的に観光振興事業に活用する。

3 観光の位置づけと現状及び課題

1) 変遷 (P8)

- ・斜里町（知床）観光は 60 数年の歴史をもつ。
- ・知床国立公園の指定、知床旅情ブーム、知床横断道路の開通、マスツーリズムの盛衰、世界自然遺産登録、新型コロナウイルス感染拡大、遊覧船による海難事故などを経て、今日に至っている。

2) 入込動向等 (P9～13)

- ・入込客数は、平成 10 年度の 182 万人をピークに減少を続け、令和 5 年度には 87 万人余りまで落ち込んでいる。
- ・一方、外国人観光客は増加しつつあり、令和 5 年度には約 14% のシェアを占めるまでになってきた。
- ・人口の現状は、昭和 60 年度に一度増加、その後、減少が続き令和 2 年度には 11,418 人となり少子高齢化も進み、令和 12 年には 1 万人を切る見通し。

3) 観光産業の位置づけと経済効果 (P14)

- ①観光産業は、農業や漁業と並ぶ基幹産業の一つとして、地域経済や雇用に大きく貢献している。
- ②直接的な観光消費額は 89 億以上と推定され、数百人以上が直接的に観光産業に従事していると推定される。

4) 世代動向の変化 (P15)

- ①ネット社会でデジタル技術になれ精通している世代となり、環境や社会に配慮した消費行動をする傾向がある。
- ②サステイナブルや SDGs という消費基準が加速するとともに、リモートワークの増加に伴い、柔軟な働き方を選ぶ人が増えてくることが予測される。

5) 観光の現状と課題 (P16～19)

- ①第 1 次斜里町観光振興計画の各施策別及び、全般的な事項に区分して現状と課題の整理を行い、内部要因・環境と外部要因・環境に区分し、かつ、活かし利用すべき事項と克服すべき事項に区分し整理する。

4 観光振興の目標と方向性

1) 観光における基本目標 (P21)

- ・第 7 次総合計画における基本目標「魅力的で持続可能な選ばれる観光地づくりの推進」を基本目標とする。

2) めざすべき観光地のイメージ (P22)

- ①目標を達成するためのイメージとして、次のイメージを兼ねそなえた観光地をめざしていく
(概略) 海・川・森のサイクルがもたらす自然環境とアウトドアの聖地となると同時に、自然と人々の暮らしが隣接、共存するライフスタイルを体現するまちとして住民・来訪者双方から評価される。
- ②イメージを実現させるため、次の6項目のミッションを策定する。
 - I 非日常的で体感性の高い景勝と体験の場を確保し、良質な場を提供する。
 - II 食事・宿・温泉・人・まちで旅の疲れを癒し、自然景勝や体験以外の楽しみ、交通アクセスや情報発信、安全対策などトータル的に提供する。
 - III 自然体験、アウトドア愛好家の目的地として、季節を変えても何度でも訪れたいくなる多様な魅力と楽しみを提供する。
 - IV インバウンドなど、国際マーケットでの競争力のあるコンテンツ化を進め、世界水準を意識したサービスを提供する。
 - V 自然保護の歴史を守り育て、世界自然遺産、知床国立公園を有するまちで暮らす満足感を感じて、持続可能なまちづくりに貢献する。
 - VI 旅行者・訪問者と地域住民がつながり、交流を提供する。

3) 観光振興の視点 (P23)

- ①「旅行者・来訪者」からみた観光地の魅力向上として、次の3点を意識した施策の展開を図る。
 - I 滞在時間拡大と周遊・交流促進
 - II 旅行者の満足度の向上
 - III 再訪意識の向上
- ②「地域住民」から観光地の魅力向上として、次の3点を意識した施策の展開を図る。
 - I にぎわいの実感と美しい自然の保護
 - II 生活満足の向上
 - III 定住人口の維持と移住の促進

4) 具体的な目標項目・数値 (P24~25)

- ①旅行者からみた観光地の魅力向上及び、地域住民からみた観光地の魅力向上の視点で、各10項目を目標値として設定する。
- ②目標値の一部は、国内外から選ばれる観光地となるため、持続可能な観光の指標となる観光庁策定の「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」の管理評価指標を採用する。

5 計画推進イメージと施策の具体的な内容等

- 基本目標、めざすべき観光地イメージを達成するため、「旅行者・来訪者」からみた観光地の魅力向上施策と地域住民からみた観光地の魅力向上施策に沿って進めていく。

1) 観光振興に向けたシステム思考による計画推進イメージ (P27)

- いくつかの課題を1つのグループとして戦略にまとめ、一つの戦略が改善されると次の課題もよくなるといった循環的に政策を推進していくイメージで各戦略、施策の推進を行う。

2) 高品質で多様な経験を提供する観光地（旅行者・来訪者からみた観光地の魅力向上）(P28～36)

① 4つの戦略、17の施策で構成する。

戦略1 高品質で多様な訪問体験

施策1 観光施設・インフラ施設の充実・利用促進、施策2 旅行者の訪問体験マネジメントを設計する情報発信、

施策3 MICE・教育プログラム等の誘致・受け入れ対策、施策4 人材育成支援と組織強化

戦略2 滞在時間の拡大

施策1 二次交通・域内交通の最適化、施策2 飲食店等の事業継承、新規参入促進、

施策3 自然アクティビティの多様化、施策4 新たなトレイルの整備

戦略3 顧客満足度の向上

施策1 インクルーシブ（包摂的）な受入環境整備、施策2 観光DXの促進、施策3 マーケティング・モニタリングの仕組み構築、

施策4 自然アクティビティリスクマネジメントの着実な推進、施策5 災害、感染症等危機管理体制

戦略4 デスティネーション・ブランディング

施策1 観光地ブランディングの推進、施策2 自然保護活動と観光の連携促進、施策3 歴史、文化資源、芸術文化の活用、

施策4 イベントマネジメント

3) 関係人口や移住定住に結びつける観光地（地域住民からみた観光地の魅力向上）(P37～41)

① 4つの戦略、9の施策で構成する。

戦略1 高品質で多様な訪問体験の提供

施策1 観光施設・インフラ施設の利用促進、施策2 住民参加・協働型プログラムの提供、施策3 サステイナビリティ・プログラムの充実



戦略2 観光による恩恵の実感

施策1 町民の観光理解促進、施策2 観光による経済効果の見える化

戦略3 町民意識の醸成

施策1 交流を通じた学習機会の確保、施策2 「旅育(タビイク)」の促進

戦略4 関係人口から定住人口への移行

施策1 「関係人GO!SHARI」プロジェクトの展開、施策2 大学・企業との連携

4) 各戦略・施策の主な内容

別紙 参考資料1のとおり

6 参考資料

1) 第2次斜里町振興計画策定の空間イメージ図 (P43~46)

- ・観光振興施策を進めていくうえでの、ある程度の空間ごとのイメージ図として掲載。
- ・今後、施策を推進していく中で内容の解像度を上げていく予定。

2) 用語集 (P47~49)

- ・第2次斜里町観光振興計画における用語の解説を記載する。

3) 第2次斜里町振興計画策定の経過 (P50~52)

- ・斜里町観光振興戦略会議委員等の名簿及び、戦略会議の開催履歴、町議会全員協議会、パブリックコメント実施日等を記載する。